

上本部学園



学校だより

第41-2号

ひやく せつ ふ とう

# 百折不撓

令和4年12月23日

文責：校長 玉城史江



## 77年前、この空は見ていたのでしょうか？

### ～中2修学旅行、平和集会～



12月13日～15日の2泊3日で、九州への修学旅行が行われました。参加した33名の中学2年生は、3日間、体調不良者を出すこともなく、元気に九州の地での学びを深めてきました。

1日目は、九州国立博物館で、社会科の資料集でしか見たことのない品々を、実際の目で見る事ができました。その後は、太宰府天満宮で、参拝。校長先生は、しっかり中3の合格祈願を行って来ましたよ。

修学旅行2日目は、原爆資料館見学の後、平和集会が行われ、中2全員で平和への誓いを立てました。その平和集会で生徒代表として泷 太雅さんが平和作文の朗読を行いました。その内容が下記のものです。

今から77年前の8月9日、今のような空は見ていたのでしょうか？

今日のように人々は、こうして笑い合っていたのでしょうか？

77年前のあの日、僕達がいるここに原爆が落とされました。この原爆が原因で約16万人の命が奪われました。原爆投下のあの日から人々は、同じ過ちを繰り返さない、核のない平和な世界をつくらうと訴えてきました。

ですが、今年の2月24日ウクライナ侵攻がロシアによってはじまりました。原爆投下の日からあれほど、二度と戦争はしないと言い続けてきましたが、今でもウクライナ侵攻や各地で戦争は続いています。侵攻がはじまった日から数ヶ月の間、ニュースで取り上げられてきました。毎日耳にした被害者や遺族の声、核におびえる人の声や遺体の前で泣き



崩れる人を見て心が痛んだ人もこの中に多くいると思います。今では、ないと思われてきたロシアによる核の使用も現実味を帯びてきています。ロシアや他国のこれからあるかもしれない核の使用を止めるために、この時間で核と戦争が引き起こす被害についてより深く知りたいと思います。僕達がもし、戦争や原爆について教える側になった時には、1人でも多くの方が核の脅威から救われ、怯えずに暮らしていけるような未来をつくっていきたいです。

泷 太雅

